

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : アイスランドのジェンダー平等の道のりと現状
授業特別協力者名 : 塩田 潤 氏
実施日時 : 2023年12月18日(月) 5時限
担当教員名 : 鳴子 博子
授業科目名 : 社会思想史
履修者数 : 67名

実施結果

講義はアイスランド(総合1位)と日本(同125位)のジェンダー・ギャップ指数のランキングの対比から始められた。現在のアイスランド社会から想像もつかないほど、過去のアイスランドはジェンダー平等の国ではなかったこと(男女間の大きな賃金格差、女性への家事労働の偏重)が語られ、1975年の「女性の休暇」と呼ばれる女性たちの大ストライキが同国の政治・社会を変える転換点となったこと、世界初の民選女性大統領の誕生(1980年)、女性同盟による女性議員増加のための活動について説明された。ついで女性議員の増加の結果、育休制度改革(3+3+3モデル)が行われ、父親の育休取得率が飛躍的に高まったことが強調された。その後、アイスランドは2008年の金融危機に直面するが、三大銀行の破綻という危機的状況に陥った同国はどのように危機を乗り越え、変貌を遂げたのか。初の女性首相の誕生、企業役員のクォーター制の導入(2010年)、罰則を伴う同一賃金認証法の制定(2018年)と次々に政策が実施されてゆく。しかし、塩田氏はここで、アイスランドは本当に「世界一女性が暮らしやすい国」なのかと問い、同国になお残る問題を指摘する。深刻な性暴力の存在がそれである。最後に塩田氏は、それでは日本にはどのような問題があるのか、日本社会はどのように変えてゆけるだろうか、学生に問いかけて講義を結んだ。塩田氏は配布資料としてレジュメを用意され、日本から遠い小国アイスランドの状況を身近に感じられるように、多くの写真やグラフを盛り込んだわかりやすいパワーポイントを駆使して明快で熱のこもった講義を展開された。講義後、質疑応答に移ったが、学生から出された複数の質問に丁寧に応答くださった。続いて学生にコメントシートを書いてもらったが、彼らのコメントには新しい知見を得て刺戟を受けたなど、積極的なコメントが多くみられた。以上のように本講義は、ジェンダー視点から現代社会を捉えること、さらにはジェンダー視点をもって社会思想を学ぶことの重要性に気づくよき機会となった。